価値創造の軌跡

私たちJSRグループは、従来からあるマテリアルと新しいマテリアル、それぞれの可能性を追求しています。
化学の潜在力を引き出して新しい価値を創り出し、未来に向けて社会の可能性を少しでも広げるため、挑戦し続けています。
次代を切り拓くマテリアルを通じて、新たな価値を顧客や社会に提供し、
社会に貢献することを目指しています。

1960s
合成ゴムの国産化に成功

1957年、国策会社として設立。1960年に四日市工場が完成しスチレン・ブタジエンゴム(SBR)の国産化に成功。その後、各種合成ゴムを開発・製造し、合成ゴムメーカーとして国内トップとなる。1969年に民間会社に完全移行。

1960s

JSR創業期

1970s

1970s
深刻な不況に対応

2度の石油ショックで原油価格が高騰。急激な円高と相まって合成ゴムの輸出競争力の低下と需要の伸び悩みで深刻な事態に直面。この状況に対応すべくプラントの省エネ化や生産設備の集約を実施しつつ、事業の多角化戦略を開始。

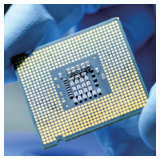
1980s

1980s
新規事業の創出

1981年、石油化学系製品の高付加価値化を目指しつつ、石油化学系一辺倒の事業構造を変革すべく電子材料分野へ参入。成長著しい情報電子産業に新たなマテリアルを提供し、ともに成長する体制へ。

多角化模索期

1990s



多角化推進期

1990s
グローバル生産体制の構築

市場のボーダーレス化やアジア新興国の攻勢など産業構造が大きく変化する中、一層の成長のため電子材料事業への資源投入を強化。欧州と北米にフォトレジスト工場を建設し、日米欧での生産体制を確立。ディスプレイ材料は日韓台で生産体制を確立。1997年に社名を「日本合成ゴム株式会社」から「JSR株式会社」に変更。

2000s

2000s
ファイン事業の拡大

トップメーカーとの協業によって世界市場で存在感を拡大。半導体材料やディスプレイ材料を中心にファイン事業を拡大し、事業構造を変革。

事業構造変革期

2010s

2010s
持続的成長を目指して

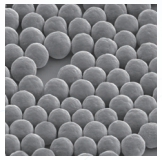
2020年のありたい姿を目指して3段階の中期経営計画をスタート。2011年開始の3カ年計画「JSR20i3※」では、石油化学系事業とファイン事業で差別化を進めつつ、戦略事業としてメディカル材料(ライフサイエンス)や環境・エネルギー分野に投資・育成。

成長への始動

2014

2014
成長に結びつける

2014年から3カ年の中期経営計画「JSR20i6※」では、「JSR20i3※」で事業課題に取り組んだ成果をもとに、高機能タイヤ用溶液重合SBR(SSBR、エラストマー事業)・半導体材料事業・ディスプレイ材料事業のグローバル化を進展させた。また、ライフサイエンス事業を石油化学系事業、ファイン事業に次ぐ新たな事業の柱と位置付けた。



グローバル化の進展

2017

2017
未来に向けた競争力強化

2017年4月から開始した中期経営計画「JSR20i9※」では、SSBR・半導体材料事業・ライフサイエンス事業を成長ドライバーと位置付け、収益拡大を推進した。また、デジタリゼーションへの対応を通じた労働生産性向上にも取り組み、競争力の強化を図った。

持続的成長

2020s

2020s
持続的な成長へ

中長期的な環境の変化に対応するため、レジリエントな組織を構築し、サステナブルな成長を目指し、すべてのステークホルダーに価値を提供する。

変化に適応する強靭な組織構築

※「JSR20i3」(ジェイエスアールにせんじゅうさん)、「JSR20i6」(ジェイエスアールにせんじゅうろく)、「JSR20i9」(ジェイエスアールにせんじゅうきゅう)は、企業理念であるMaterials Innovationを実行すべく、innovationを強調して「i」を使用して表記しています。